Kyoto Sangyo University

DIVERSITY NEWS

2号

2015.6.25

女性研究者研究活動支援事業 トップセミナー

「女性活躍促進」 ～政府における最近の動き 京都府の取組、大学との連携～

講師：京都府 府民生活部 男女共同参画監 大谷（おおたに） 学（まなぶ）氏

2008年4月 男女共同参画課（旧 女性政策課）に、初めての男性課長として着任。
その後、他部門を経て、2013年4月 男女共同参画監に。育児休業を取得された男性管理職でもある。

6月10日（水）、10号館10505会議室にて、京都府 府民生活部 男女共同参画監 大谷 学氏を講師としてお迎えし、常任理事、部局長、事務部長を対象とした、女性研究者研究活動支援事業 トップセミナーを開催しました。

はじめに、大城 光正 学長より、本学が実施している女性研究者研究活動支援事業の説明がありました。この事業では、平成28年度末までに10名の女性教員を採用するという数値目標が設定されており、一部の学部で、女性限定公募も取り入れ、目標達成に向けて実行していることが報告されました。そして本学が、女性研究者支援事業に全学的に取り組み、女子学生にとっても魅力のある大学にしていくことが明言されました。

次に、大谷氏より、「女性活躍促進」 ～政府における最近の動き 京都府の取組、大学との連携～ のご講演をいただきました。大谷氏は、2児の父で、2回の育児休業を取得されました。日本では、男性の育児休業取得率は、1％～2％と低く、取得期間も、1ヶ月未満が大半を占めていますが、育児休業制度を利用したいと考える男性は、31.8％もいるそうです。これらから、まだ、男性の育児休業取得の環境が整っていないことがわかります。大谷氏も、育児休業取得に迷いがあったそうですが、上司の勧めもあり、取得を決断したそうです。今は、育児休業を取得したことで得た「気づき」を「強み」として、仕事と生活に「活かす」ことを実践されており、育児は貴重な経験であると話されました。

また、仕事と生活との調和という点では、育児だけでなく、介護も大きな課題であり、晩婚化の進む中、育児と介護が同時に発生する可能性を指摘されました。男女共同参画と言えば、女性のための施策ととらえられがちですが、非正規雇用の拡大、リストラ、親の介護のための介護離職など、社会環境の変化によって、男性にとっても重要なテーマとなってきていると提起されました。

ではなぜ今、女性の活躍が重要な課題として取り上げられるのでしょうか。少子高齢化が加速する社会では、介護離職問題など、時間的に制約のある者の増加により、男性中心の同質性から、男女ともの多様性への移行が必然であるからだとの説明がありました。大谷氏は、さらに、女性の活躍推進を、単なる「福利厚生」や「CSR」の一環ではなく、競争優位を築くための“人材活用戦略”として、トップのコミットメントの下に、全社的に取り組んでいる企業には、数々の効果が現れていることを強調されました。

そして、国策として、女性の活躍が重要視されていることを、閣議決定等を示して紹介されました。また、京都府・京都経済界も、国の動きに合わせ、各種の取組を実施していることが報告されました。

京都府は、女性の活躍の見える化事業として、「京都府内企業における女性の活躍実態調査」を行い、企業における女性の活躍事例集を作成されました。経済界の取組としては、京都府内企業における女性の活躍を加速化させるため、企業・団体の枠を超えて、女性の管理職予備層を育成するための、リーダー養成研修を紹介されました。また、2015年3月には、輝く女性応援京都会議が設立され、行政（府・市・労働局）と経済団体等が連携し、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律案」（時限立法10年間）と連動しながら、京都における女性の活躍加速化のための取り組みを実施していることの説明がありました。

まとめとして、大学との連携について、3つの提案をいただきました。1つ目は、京都企業で活躍する女性管理職によるキャリア教育の連携です。2つ目は、京都モデルWLB認証企業の紹介です。3つ目は、女性活躍推進に係る政策協議への参画です。女子シャインCheers!と呼ばれる、府内で働く女性社員の就業継続やステップアップを応援する取組の紹介などにより、今後の方向性についての示唆をいただきました。

講演後は、井尻　香代子 ダイバーシティ推進委員会委員より、女性教員を代表して、大谷氏への謝辞を述べました。

最後に、大西　辰彦 副学長が、閉会の辞を述べ、セミナーを終了しました。

第1回 Koyama 女子カフェ

6月19日（金）、ランチタイムを利用して、女性研究者・女子学生を中心とした交流会「Koyama　女子カフェ」を開催しました。学生には研究職への身近さに触れる機会、教員には学内交流の機会の提供を目的として企画したものです。

第1回は、ダイバーシティ相談室カウンセラーの栗岡住子先生に、医学的な面から、メンタルヘルスとスキンケアの関係をお話しいただきました。肌のトラブル要因である、紫外線、乾燥、刺激、女性ホルモンの分泌について、トラブル事例、数値データなどを示して説明があり、健康な肌状態を保つための日常生活での注意、ちょっとしたコツなどを教えていただきました。

参加者は、質問をしたり、先生のアドバイスや、各自の体験などを共有しました。

次回は、7月17日（金）に、コンピュータ理工学部の河合　由紀子先生と女子学生グループ「CSE Girls」より、話題提供していただきます。

京都産業大学　ダイバーシティ推進室

〒603-8555　京都市北区上賀茂本山
Tel.075-705-3125（内線 6121）　本館3階　学長室内
E-mail:Women-diversity-jim@cc.kyoto-su.ac.jp